

インドール 陰性
クエン酸 陽性
α-酒石酸 陰性

その後の検索は吉田保健所で進めたのであったが、同保健所管内ではパラチフスの発生は31年から35年までなく36年河口湖町、37年富士吉田市で各1名ずつ発生しているだけなので、この多発例は防疫担当者を始め、市民に

大きなショックを与えた。それがあらぬか国立予防衛生研究所より分離株送附の要望があり、同所へ全分離株を送附した。その後、同所からファージ型別の結果、全分離株共にパラチフスB菌、I 正常型であるとの通知を得た。又上記ウイルスに関する成績は原因と思われるウイルスは分離されなかった旨の果宛の通報を得た。

大腸菌の薬剤耐性試験

有 泉 昇

近時病原細菌の薬剤耐性菌が増加の一途をたどり、吾々の日常業務に耐性検査は欠くことの出来ないもの一つになったが、患者に限らず一般健康者の耐性を獲得している大腸菌はどの程度のものか調べて見たところ、次のような成績を得た。

検査法 健康者糞便を「デスオキシコレート寒天」に分離培養し大腸菌群と思われる集落から釣菌して、TSIに移し、この所見において大腸菌群の性状に一致するものを検査の対象とした。

測定薬剤 SM, CM, TCの三剤平板希釈法によつた。

ない。

(そのII)

某町婦人団体糞便(24例)

SM	CM	TC
50γ.....1	6.25γ.....1	1.56γ.....6
1.56γ.....6	3.13γ.....18	0.78γ.....18
0.78γ.....14	1.56γ.....5	
0.39γ.....3		

SMに50γ耐性を示すもの1例を見たが、これは現在健康であるかあるいは薬剤使用中であるか調べていない。

成績(そのI)

市内某中学校生徒糞便(21例)

SM	CM	TC
12.5γ.....2	12.5γ.....2	6.25γ.....2
6.25γ.....19	6.25γ.....12	3.13γ.....13
		1.56γ.....6

耐性を示した薬剤及び濃度における例数を示したものである。

各個人の現在までの治療の経験等については調べ

(そのIII)

某町内団体糞便(21例)

SM	CM	TC
50γ.....1	3.13γ.....13	50γ.....1
1.56γ.....6	1.56γ.....4	6.25γ.....2
0.78γ.....14	0.78γ.....4	3.13γ.....6
		1.56γ.....12

SM50r耐性とTCのそれとは同一人のものである。